

薬連ハイライト

本田あきこ氏、再選を果たす！

2025年7月20日に行われた第27回参議院議員通常選挙において、自由民主党の参議院議員で日本薬剤師連盟の組織内統一候補である本田あきこ氏は152,518票、得票数9位（特定枠を含むと11位）で再選を果たした。自由民主党に対する強い逆風、また2期目のジンクスと言われる中、参議院で3年ごとそれぞれの薬剤師議員の議席を守りました。

選挙期間中は全都道府県に街宣車が訪問し、本人も街頭活動や集会などで積極的に活動しました。加えて、SNS等での本人の発信と、各支援団体や支援者の積極的な活動が行われたのも大きく当選に寄与しました。この当選は、薬剤師や薬局スタッフ、薬業に携わるすべての皆さまの思いが結集した結果にほかなりません。

2期目となる本田あきこ氏には、薬剤師・薬局や薬業を通じて「国民のいのちと暮らしを守る」積極的な活動に期待しています。

本田あきこ参議院議員、参議院厚生労働委員長に就任

2025年8月1日に開会した第218回臨時国会の本会議において、常任委員長の指名が行われ、本田あきこ参議院議員が参議院厚生労働委員長に就任しました。厚生労働委員会は、薬剤師や薬局に関するまさに中心的な委員会であり、多くの関係する議論がなされます。同じ薬剤師議員である神谷まさゆき参議院議員は、厚生労働委員会理事に就任しております。



オレンジ日記

感謝

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



第27回参議院議員通常選挙の投票日当日は選挙期間中と変わらぬ強い日差しが照り付く猛暑日でしたが、私は朝から投票行動を促す連絡をさせていただき、午後8時から開票状況を見守る時間となりました。

事前に「早朝での当確は勘弁してよ」というお声をたくさん伺っていた中での開票速報は、選挙区での厳しい情勢を伝える報道が続く中、比例代表は日付が変わり「未明」と呼ばれる時間帯になってから徐々に開票率が上がり、明け方には開票率が9割に近づいたものの、報道各社の当落情報が出揃わない状態が続きましたので、選挙事務所に集まっていた皆さまと共に落ち着かない時間を過ごすこととなりました。

そして、開票から丸半日が経過したあたりで、主だった「当確」報道が出ていることを踏まえて、慎重な気持ちを残しつつも、選挙事務所に詰めていただいた方や電話をいただいた方と喜びを分かち合うことといたしました。

今回の得票数は15万2,518,704票、党内12議席中11位でした。有権者数（1億3,591万1,806人）および自由民主党候補者名での得票総数（361万2,036,328票）に照らすと、概ね有権者の0.15%、自民党の名簿登載者の名前での投票いただいた方の4.22%が「本田あきこ」、「本田顕子」等と書いていただいたこととなります。皆様、本当にありがとうございました。

選挙明けの第218回臨時国会が8月1日から5日間の会期で開かれ、6年前と同様、参議院正面玄関から議事堂に入り、当選後の初登壇の時だけ通ることができる階段を、今後6年間、国民のいのちと暮らしを守るために誠心誠意取り組み、比較第一党としての責任を果たしていく決意で上がりました。

2期目も変わらぬご指導よろしくお願ひ申し上げます。

政幸だより

骨太の方針2025

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



本田あきこ先生のご再選、誠にありがとうございます。先生と共に未来を切り拓く決意を新たにし、これからも全力で取り組んでまいります。

骨太の方針2025は、本年6月6日に開催された第7回経済財政諮問会議で原案が示されました。6月9日の11時から開催された自民党の厚生労働部会において、医薬品安定供給のための設備投資の重要性を改めて訴えると共に、十分な支援策が必要であることを主張しました。さらに、革新的新薬が適切に評価されるよう、費用対効果評価制度の対象拡大については、乱暴な進め方をするのではなく、幅広く意見を聞いた上で検討を進めるべきであることを強く訴えました。

同日14時から開催された政調全体会議において、薬価を社会保障費の財源とすることは限界に来ており、医薬品卸が運ぶ基礎的医薬品の8割が赤字の状況であること、また調剤医療費の7.5割を薬剤費が占める薬局は経営が苦しく賃上げが困難になっている窮状を訴え、財政フレームの見直しを強く迫りました。

6月13日に閣議決定された骨太2025で、社会保障関係費については「具体的には、高齢化による増加分に相当する伸びにこうした経済・物価動向等を踏まえた対応に相当する増加分を加算する。」と記載されました。原案の段階では、経済・物価動向等も高齢化などと同様「自然増」に含まれていましたが、議論を経て、経済・物価動向等を踏まえた対応に相当する増加分は自然増とは別枠とされました。

また骨太の原案で、薬局が有する情報の標準化と「デジタル化」を進めると記載されていた箇所は「DX化」に修正されました。デジタル化は業務や作業を効率化・自動化することを目的に行われます。薬局ではすでに電子薬歴等のDX化が進んでおり、データやデジタル技術を活用した業務変革のさらなるDX化によって、薬局が有する情報の活用幅の広がりが期待されます。

加算の獲得やDX化の推進については、これから年末に向けてしっかりと対応してまいります。